

令和5年6月 定例会（第2回）会議録（抜粋）

○16番（渡辺厚子さん） 議場の皆様、こんにちは。公明党の渡辺厚子でございます。私は市議会では4期目となりますが、何度登壇しても質問席での緊張感は変わりません。今期におきましても、市民の皆様のお声を形にするために、初心を忘れることなく精進してまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従いまして、大綱1、安心・安全なまちづくりのために、中項目2点の質問をさせていただきます。

初めに、中項目1、防犯対策の強化について。

世間を騒がす重大事件等の報道を見るたびに、それが遠いまちのことであったとしても不安な気持ちになります。ましてや、身近なところで犯罪が起きたときの恐怖は計り知れません。今回の質問では、市民の穏やかな暮らしを守るために、より安全な木更津市を目指し、防犯対策の強化として、小項目4点についてお尋ねします。

小項目1点目は、防犯教育についてです。

市の安心・安全メールで不審者情報が送られてきますと、またかと思ってしまうほど、不審者案件が度々起きていると感じます。子どもたちが通学や下校途中で不審な人物に遭遇し、どれだけ怖い思いをしたかと思うと、本当に心が痛みます。そして、いかにして子どもたちを危険にさらされないようにするか。子どもたち自身が自分を守るためにできることを身につけることは必要であり、防犯教育は重要であると思います。

そこで、現在、本市で取り組んでいる防犯教育についてお聞かせください。

次に、小項目2点目では、防犯カメラについてお聞きします。

防犯カメラの件は、これまでも多くの議員が質問してきたテーマです。私も過去の質問で、平成30年に教育民生常任委員会で訪れた兵庫県加古川市での視察を踏まえて、子どもの見守り機能を備えたツールとの連携事例を紹介するなど、増設についても訴えてきたところでございますが、昨今の社会情勢を鑑み、市はどのように考えているか、改めて見解を伺います。

小項目3点目は、青色防犯パトロールについてです。

市のホームページを見ますと、防犯パトロールのページには、「青色回転灯を設置した防犯パトロールを行うために防犯指導員の方がパトロール実施者証を取得し、2台のパトロール車で各地区ごとにパトロールを行っています」とあり、さらに、「上部に青色回転灯を装備した白黒の自主防犯パトロールカーにより、市内を10地区に分け職員が2人一組で定期的にパトロールを行っています。また、令和2年4月より運営開始した防犯ボックスにおいても、青パト車両を活用し毎日パトロールを実施しています」との説明がありますが、青色防犯パトロールの具体的な実施状況について伺います。

小項目4点目は、特殊詐欺対策についてです。

特殊詐欺とは、被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振り込みやその他の方法により、不特定多数の者から現金をだまし取る犯罪の総称です。市の安心・安全メールでは電話de詐欺への注意喚起も頻繁に送られてきますが、特殊詐欺の被害状況や、その対策として重点的に取り組んでいることについて伺います。

続きまして、中項目2、交通安全対策の強化について。

安心・安全なまちづくりのために、交通安全対策は重要な課題です。そして、それにはハード・ソフトの両面にわたって様々な施策に取り組まなければなりません。今回は以下の5点に絞ってお尋ねします。

まず、小項目1点目は、手上げ横断についてです。

手を上げて横断歩道を渡りましょうという言葉は、昔はよく言われたものです。この手上げ横断は、かつては国家公安委員会が発行している「交通の方法に関する教則」の中で明文化されたものが、1978年に削除されていました。それが2021年4月の改正で43年ぶりに復活したそうです。「交通の方法に関する教則」とは、歩行者と運転者がそれぞれの責任を自覚して、安全快適な車社会を築いていくための手引として利用されているものです。道路交通法のように違反者に対して罰則があるわけではありませんが、全ての歩行者や運転者が守るべきものとされており。

この「交通の方法に関する教則」では、手上げ横断について、「横断するときは、手を上げるなどして運転者に対して横断する意思を明確に伝えるようにしましょう」と記載されています。私は、朝の登校見守り活動を行う際に、信号が青でも道路を横断するときは手を上げて渡るように促しておりますが、声かけをしなかったとすると、手を上げない子どももいます。ふだんから手を上げる習慣を身につけることは自分の身を守るために重要と思いますが、学校での徹底や推進についてはどのような状況か、お聞かせください。

次に、小項目2点目、スクールゾーンについて。

私は、平成27年6月定例会や令和元年6月定例会でもスクールゾーンの設定促進を訴えてきましたが、なかなか進んでいないのが現状です。それには、課題として、スクールゾーン設定により交通規制設定の要望が伴う場合には近隣住民への負担が大きくなってしまふことなどが挙げられるとの当時の答弁もありました。しかし、通学路の安全対策の強化としては、スクールゾーンの設定促進は重要であると考えます。改めて、市の考えを伺います。

小項目3点目は、通学路のカラー舗装(グリーンベルト等)についてお聞きします。

様々な地域で、小学生の保護者から、道幅の狭い通学路へのグリーンベルト舗装を求める声をお聞きしますが、本市の設置箇所はまだまだ少ない状況であると認識しております。交通安全対策としての通学路のカラー舗装について、市の見解をお聞かせください。

続いて、小項目4点目、ゾーン30、ゾーン30プラスについて。

ゾーン30は、生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つです。区域を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、そのほかの安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における車の走行速度や通り抜けを抑制します。私は、このゾーン30の設定地域が増えることは、登下校時だけでなく、子どもたちや地域の安全に大きく寄与するものとの思いから、平成27年と平成29年の議会質問でも推進を訴えたところであります。

現在、第11次木更津市交通安全計画の中で、歩行者等の安全通行の確保としてゾーン30指定の推進も盛り込まれており、市内7ヶ所に設定されておりますが、今後の指定予定はあるのか、また、新たなゾーン30プラスという取組についても推進する考えはあるのか、伺います。

最後に、小項目5点目として、自転車ヘルメットについてお聞きします。

本年4月1日より、自転車に乗る全ての人に対し、ヘルメットの着用が努力義務となりました。これに関連して、市のホームページでは、「全国の自転車乗車中における交通事故死者のうち約6割が頭部に負ったけがの影響で亡くなり、また、ヘルメット非着用時の致死率は着用時と比べて2倍以上となっております」との記述があります。ヘルメットを着用することで安全性が高まることは分かるものの、実際にヘルメットを着用している人は、現時点ではあまり多くはないようです。私が通学路の見守り活動中に見かける高校生も、ほとんどが着用していません。

そこで、市としては自転車ヘルメットの着用促進をどのように図っていくのかお伺いしまして、最初の質問を終わります。

○教育部長(秋元 淳君) 私からは、まず、大綱1、安心・安全なまちづくりのために、中項目1、防犯対策の強化について、お答えいたします。

防犯教育についてでございますが、各学校では関係部署と連携した防犯教室の開催や、児童生徒への危険箇所の周知、地域安全マップづくりなどの指導により、子どもたちが犯罪や事故に遭わないような取組を行っているところでございます。

次に、中項目2、交通安全対策の強化について、お答えいたします。

初めに、手上げ横断についてでございますが、道路を横断するときは手を上げて、車両の運転手に横断する意思を伝えるために、各学校では新1年生や低学年の児童を中心に、交通安全教室において手上げ横断の重要性を指導しております。また、登下校時の通学指導では、日常的に手上げ横断の習慣付けに取り組んでいるところでございます。

次に、スクールゾーンについてでございますが、教育委員会では、木更津市立小学校スクールゾーン設定要領により、現在、西清小学校、清見台小学校、富来田小学校、祇園小学校、請西小学校、中郷小学校の6校でスクールゾーンを設定し、児童生徒の安全確保に努めているところでございます。今後も、学校や地域からの要望に基づき、スクールゾーンの設定に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、通学路のカラー舗装(グリーンベルト等)についてでございますが、通学路の路側帯や交差点のカラー舗装につきましては、視認性を高め、車両の運転手には路側帯を走行しないことや速度の減速、地域の方々には通学路であることへの再認識を図り、安全で安心な通学環境を整える取組でございます。現在、木更津第一小学校、西清小学校、清見台小学校、祇園小学校の通学路にカラー舗装をした箇所がございます。

教育委員会といたしましては、今後も、警察や道路管理者などの関係機関と連携を図りながら、児童生徒の安全・安心につなげてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○市民部長(石井彰一君) 私からは、まず、大綱1、中項目1について、お答えいたします。

初めに、防犯カメラについてでございますが、防犯カメラの設置は、犯罪の抑止となる上、記録された映像は犯罪に対する物的証拠として非常に有効なものと考えております。市が設置している防犯カメラは現在10ヶ所、21台あり、県の補助金を活用し、耐用年数を超えたものなどから順次新機種への更新を行い、今年度は新規に1ヶ所設置する計画がございます。今後も、より効果的な設置箇所について、木更津警察署と協議し検討してまいります。

次に、青色防犯パトロールについてでございますが、自主防犯活動の一つである青色回転灯を搭載した車両による巡回パトロールは、地域の防犯意識の向上につながる重要な活動と考えております。市で所有している青色回転灯搭載車両のうち2台を自治会等より選出された防犯指導員に貸し出し、それぞれの地区における防犯パトロールに活用いただいております。出勤実績としまして、昨年度は2台で延べ263日のパトロールを実施いただきました。夏休み、冬休み等の学校の長期休み期間や年末年始は特に多く利用されました。

また、防犯ボックスに勤務しているセーフティアドバイザーによる日々のパトロールや、市職員による定期的なパトロールの実施に加え、警察署から不審者情報を得た際には重点的なパトロールに努めております。

次に、特殊詐欺対策についてでございますが、本市では、電話de詐欺と見受けられる不審電話等の情報を受け、安心・安全メールにより情報発信を行っておりますが、最近の手口は巧妙化しており、危機感を持っているところでございます。

特殊詐欺の被害状況でございますが、本市においては、令和4年中に18件、被害総額は2,489万8,596円で、令和3年時と比較しますと14件、2,252万6,310円減少しておりますが、感染症対策による行動制限が緩和され、以前のような生活を取り戻しつつある中、予断を許さない状況であると認識しております。

その対策の一つとして、県も推進しておりますプラス防犯活動を地域住民へ周知しております。プラス防犯とは、外出の際に周囲の様子を見守るなど日々の生活に防犯の視点をプラスする取組であり、犯罪が起こりにくい環境をつくり、特殊詐欺の被害減少につながることから、啓発物資の配布及び講習会や出前講座において周知を行っております。

次に、中項目2について、お答えいたします。

ゾーン30、ゾーン30プラスについてでございますが、ゾーン30につきましては、ゾーン内における走行速度の抑制や抜け道での通行抑制、排除を目的とした対策であり、市内には7ヶ所の指定区域がございます。指定については、地域住民より要望を受け、木更津警察署へ協議を行い、交通量調査などを経て千葉県公安委員会が決定するものであり、現在、自治会等よりゾーン30設置の要望はいただいております。

また、ゾーン30プラスは、ゾーン30に道路の狭窄やハンプ、クランクなどの物理的デバイスを設置することにより、交通安全の向上を図るものでございます。令和3年からスタートした新しい制度であるため、自治会等への周知を図るとともに、地域からの相談や要望を受けた場合には、警察署及び道路管理者と協議の上、対応してまいります。

次に、自転車ヘルメットについてでございますが、令和5年4月1日から自転車利用者の全ての方にヘルメット着用が努力義務となりましたが、議員ご指摘のとおり、ヘルメットを着用されている方はいまだ少ないと感じております。

これまで、広報きさらづや市ホームページ、SNSなどにより啓発を行ってまいりましたが、今後は、市営自転車駐車場内への啓発ポスターの掲示や、市内学校に対し生徒への啓発依頼を行うとともに、季節ごとの交通安全運動、交通安全教室及び出前講座を通じ、ヘルメットが生命、身体を守るために大事なツールであることを子どもから大人まで幅広く周知することで、ヘルメットの着用率

向上を図ってまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) それでは、再質問をさせていただきます。

初めに、防犯教育についてです。

ご答弁で、各学校で関係部署と連携した防犯教室を開催というふうにありましたが、防犯教室というのは全ての小中学校で行っているのか、お知らせください。

○教育部長(秋元 淳君) 小学校16校、中学校8校で、講話や映像視聴等を含め、様々な形式で防犯に関する教育を実施しております。

○16番(渡辺厚子さん) 様々な形式でということでしたが、外部団体を招いての体験型防犯教育というのは行っておりますでしょうか。

○教育部長(秋元 淳君) 外部団体を招いての体験型防犯教育についてでございますが、警察を招いた不審者対応に関する防犯教室を実施している学校がございます。この防犯教室では、警察官が不審者を装い、教職員の対応を含め、児童生徒が避難をするなど、実践的な取組が行われております。

○16番(渡辺厚子さん) 1つ手前のご答弁で、実施している学校が小学校16校、中学校8校ということでしたので、まだ実施されていない学校も若干あるようです。防犯教育は全ての学校で取り組むべきと考えますが、いかがでしょうか。

○教育部長(秋元 淳君) 児童生徒が防犯に対する実践的な知識を学ぶ機会と意識の高揚は自他の安全を守ることに繋がると考えますので、学校事情も考慮しつつ、全校で実施できるよう努めてまいります。

○16番(渡辺厚子さん) ぜひ全校で取り組んでいただきたいと思います。まだ実施されていない学校で、外部講師を招いたり、体験型はちょっとハードルが高い、事前準備等も要りますので、高いという場合は、先ほどもお話がありましたけれども、映像視聴などは容易だと思います。県警の公式チャンネルでも子どもの安全対策動画を配信しておりますので、そういったものも活用しながら、ぜひ全校での実施を進めていっていただきたいと思います。

それでは、次に、学校施設への不審者侵入対策については現在どのように行っているのか、お聞かせください。

○教育部長(秋元 淳君) 県教育委員会作成の学校安全の手引を参考に、各学校においては不審者侵入予防対策や不審者対応マニュアルの作成をしております。

学校施設への侵入対策につきましては、門扉や昇降口を使用しない時間帯の閉鎖や、さすまたの設置、来校者による名簿の記載と名札の着用等、いつ、誰が来校しているかを把握するとともに、積極的に声をかけるよう努めております。また、来校時に教職員へ声をかけてもらうよう掲示

物による協力依頼や、管理職による校内巡視も併せて行っているところがございます。

また、事件発生時の対応といたしましては、児童生徒の避難誘導や、机などを使用したバリケードで侵入者の移動を阻止する方法、警察への通報等、緊急時に対応できるよう各学校でマニュアルを作成しているところがございます。

○16番(渡辺厚子さん) 各学校でマニュアルを作成して、それを基に様々な対応ができるようになっていてと理解いたしました。

それはそれとして、学校ごとに施設の形状や動線が異なっておりますので、年度が替わることで新たに赴任してみえた教職員の先生方もいると思います。学校の特性を理解しつつ、万が一のときにも適切な対応ができるよう、ぜひ、訓練というんでしょうか、徹底をお願いいたします。大変だと思いますが、ぜひ、防犯教育と併せましてよろしくをお願いいたします。

次に、防犯カメラのほうに質問を移ります。

県の補助金を活用すること以外に、市独自で増設するというお考えはありませんか。

○市民部長(石井彰一君) 現在、市が設置、管理している防犯カメラ以外にも、商店街やまちづくり協議会が独自に設置しているもの、さらには木更津警察署が捜査等に協力いただくために把握している個人宅や企業等のカメラも市内に数千台あると伺っております。

市といたしましては、今後もより効果的な箇所への設置を行っていく方針でございますが、県補助金の活用以外での設置は考えておりません。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 市内、数千あるということで、今のところは、補助金活用以外は設置は考えていないということですので、市としての増設については、やはり遅々として進まないんだなということを理解いたしました。

それでは、従来の防犯カメラ以外で、見守り機能を備えた設備の活用などは検討されているのでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 防犯カメラ以外の対策といたしましては、昨年度、公民連携を推進するための新たな仕組みとして創設しました木更津市連携事業提案制度において、子どもの見守りをテーマに民間からの提案を募集し、事業者から提案をいただきました子どもの見守りサービスを採択したところがございます。

事業概要といたしましては、各学校との連携の下、事業者が、希望する児童、保護者に無償で見守り端末を配付し、1学区当たり15から20ヶ所程度に設置する見守りスポットを登下校時に児童が通過した際に、その情報を記録し、保護者はインストールしたアプリから位置情報の確認や児童が通過した際の通知を受け取ることができるサービスとなります。

今後のスケジュールといたしましては、9月事業開始を目途に、まずは市街地に所在し、市役所庁舎にも近接する木更津第一小学校、木更津第二小学校及び西清小学校の3校を対象に児童の見守りサービスを実施し、3校における効果や課題等を検証しつつ、市内全18校の小学校に広

げてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 今、大変詳しい説明をいただきました。

実は、今説明していただいたような機能を求める親御さんの声を何度かいただいたことがあります。この新たなサービスが安心につながることを期待いたしますが、この事業というか、連携事業提案制度というのはそもそも企画部オーガニックシティ推進課が担当されていたと思います。それで採択したこの見守りサービスだと思います。ただ、実際に関係してくるのはお子さん方ですので、教育部であったり、また、今の安全、防犯を担当する市民部との連携が大変重要になってくるかと思っておりますので、まず、この3校での成果が出るように、スムーズに運営できるように、よろしく願いいたします。

次に、青色防犯パトロールに移ります。

パトロールは防犯指導員や市の職員のほか、セーフティアドバイザーが実施しているということで、コースやパトロールの時間帯など情報共有というのはされているのでしょうか。そしてまた、市内全域をカバーできているのかお伺いします。

○市民部長(石井彰一君) セーフティアドバイザーや市職員が防犯パトロールを実施する場合は、あらかじめ情報を共有し、巡回する地域が重ならないよう配慮しております。市内全域を毎日パトロールすることはできておりませんが、地域を決め、順次全域をカバーできるよう実施しているところでございます。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 地域の安心・安全のためには大変ありがたい取組だと思っております。このパトロールは何時頃まで実施しているのでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) セーフティアドバイザーは、小学校の下校時の見守りを実施後、市内のパトロールを実施しておりますので、おおむね午後4時から7時までの3時間程度、市職員につきましては午後3時から5時までの2時間程度実施しているところでございます。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) それでは、各地において青パトによる防犯パトロールをこれから実施したいという要望があった場合は、どのような手続をすればいいのでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 各地区の防犯活動に使用していただくため、市ホームページに貸出し用青色回転灯防犯パトロール車予約表を掲載しております。貸出し予定のない日につきましては、木更津市防犯パトロール車貸付申込書兼宣誓書のご提出によりご利用が可能となっております。申請用紙を市ホームページに掲載しておりますので、利用可能日等の確認につきましては、事前に地域共生推進課くらし安心係までお問合せをいただいております。

また、予約が重なり、希望日に貸出しができない場合は、防犯ボックスのセーフティアドバイザー

や市職員によるパトロールを検討いたしたいと考えております。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 詳しいご説明いただき、ありがとうございました。何はともあれ、地域共生推進課くらし安心係に問い合わせればいいんだなというふうに理解いたしました。

これからも青パト車両が有効に活用され、まちの安心につながるパトロール活動が安全に実施されますことを願っております。

次に、特殊詐欺対策について質問いたします。

特殊詐欺にも様々な手口があると聞きます。最近の傾向として、どのような被害が多くなっているのでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 最近の傾向でございますが、従来のようなオレオレ詐欺や還付金詐欺といった手口が横行しているほか、以前のような銀行からの振り込みではなく、たんす預金を狙い、自宅へ現金を取りに行くといった手口による被害が増加しているところでございます。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) そこでちょっと気になった対策があるんですけども、詐欺防止に効果があると言われている自動通話録音機なんですけど、特殊詐欺対策として普及を図るのもよいのではないかなと思うんですが、これについてはいかがでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 特殊詐欺の犯罪者は自分の声を録音されることを嫌がるというお話を伺っておりますので、自動通話録音機につきましては有効な手段の一つと考えております。現在は留守番電話機能を利用した防犯対策を推奨しておりますが、今後、特殊詐欺対策の機器や普及に関し調査研究をまいります。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) いろいろな有効な機器や、また、電話会社によるサービスなんかもあるようなんですが、最初に申し上げたように、詐欺の入り口としては電話での接触段階で防ぐことが大切だと言われております。こうした機器もどんどん進化していくと思いますが、高齢者にとって使いやすいツールの情報だったり、また活用について、アンテナを張りながら研究して欲しいと思います。

次に、最初のご答弁で、対策の一つとしてのプラス防犯活動についてお話がありました。このプラス防犯、別な言い方をするとながら防犯というような言葉も聞いたことがありますが、千葉県で進めているこのプラス防犯活動なんですけど、チラシを見ますとわんわんパトロール運動というのも書いてございました。これは3つの特典がついておりまして、このわんわんパトロール運動の広がり期待したい、注目したいなと思っておりますが、本市の中でこの協力隊員の方がどのぐらいいるか、分かれば教えてください。

○市民部長(石井彰一君) わんわんパトロール運動は千葉県獣医師会会員の動物病院が行っている運動で、市内では6つの病院で協力者が登録されております。また、まちづくり協議会にお

いても同様の運動が行われておりますが、どちらも協力者の数は把握できておりません。
以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 分かりました。協力者の人数は分からないということで。

別に、今の手続で獣医師会に申し込んでこの会員にならなくとも、お散歩をしながら、子どもの見守りを意識して歩いてくださる方がたくさんいれば、それはまた安心の輪が広がっていくことだなどというふうにも思います。

先ほど申し上げた3つの特典というのは、1つが隊員証の交付、もう一つがマイクロチップ装着の助成、3点目が定期健康診断の助成という3点になっております。これもなかなか魅力的だと思いましたので、ご紹介させていただきました。

それでは、特殊詐欺対策の関連で、私の記憶ではたしか数年前に、市民部と福祉部の合同開催で朝日庁舎の1階で悪徳商法対策のイベントがございまして、それを見学したんですが、とてもいい企画だったと記憶しております。同様の啓発イベント等は予定されておりますでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 平成30年度に、イオンタウン木更津朝日におきまして、ランチタイムイベントとして、高齢者を対象にした人形劇やクイズなどを木更津市消費生活センターと地域包括センターが共催で実施いたしました。現在は、消費生活相談員と市職員が施設等へ出向き、出前講座等による啓発を行っているところでございます。

なお、今年度は、同様のイベントではございませんが、明日6月15日の県民の日にイオンモール木更津催事スペースにおいて、木更津警察署と合同で、子どもから高齢者まで様々な年代の方に向けた防犯・交通安全対策への周知を図るイベントを実施いたします。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 今ご紹介いただきました明日のイベントは、残念ながら議会がございまずので参加できません。なので、来場者数であったり、反応がどうだったかというのを分かれば、後日教えていただけたらありがたいです。

先ほど、消費生活相談員と市職員が施設等へ出向いたり、出前講座によって啓発を行っているよというお答えがありました。どんな形であっても、過去のイベントをご紹介しましたけれども、そのときの記憶として、とにかくとても楽しく、いろいろなことを学べたんですね。なので、楽しみながら、我が事、自分事として捉えられるような啓発を行っていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、中項目2、交通安全対策の強化についてお聞きします。

初めに手上げ横断の件ですが、低学年だけでなく、できれば高学年の児童や中学生にも徹底されるといいなと私は思っているんですが、いかがでしょうか。

○教育部長(秋元 淳君) 手上げ横断についてでございますが、小学校での指導を活かし、高学年や中学生も横断時には手を上げるだけでなく、車両の運転手に横断する合図を出すことが重要であると考えておりますので、引き続き、児童生徒の安全対策に取り組んでまいります。

○16番(渡辺厚子さん) 高学年であったり、また、中学生は手を上げて渡るのはちょっと恥ずかしいというふうに思うのは想像できるんですね。なので、今お話がありましたように、横断する合図を出す、言い変えるとアイコンタクトというんですかね、そういうものをドライバーに発信できるというの私も聞きました。

信号のない横断歩道に歩行者がいたときに、ドライバーとしては止まらなければいけない。これを推進するに当たって、ゼブラストップ運動がずっと展開されておりますけれども、こちらと併せて、手上げ横断とゼブラストップを歩行者とドライバーがそれぞれ意識して取り組むことで、いろいろな残念な事故が減るのではないかなと私は思っております。ぜひとも、このゼブラストップと手上げ横断、また、アイコンタクトも含めまして展開をしていっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、スクールゾーンについてお尋ねいたします。

過去に、平成27年度とか令和元年に私が質問したとき、スクールゾーンの設置箇所って5ヶ所だったんですね。先ほどのご答弁で中郷小学校が6校目として設定されたというふうに伺いましたが、その設定までの経緯についてお聞かせください。

○教育部長(秋元 淳君) 中郷小学校のスクールゾーン設定までの経緯でございますが、保護者や地域の関係団体と通学路における危険箇所等の協議を経て、学校からスクールゾーン設定に関する届出がございました。この届出を受け、教育委員会は関係部署や警察、道路管理者との協議を重ね、令和2年6月、スクールゾーンを認定いたしました。

○16番(渡辺厚子さん) 令和2年6月に中郷小は認定したということですが、市内で18の小学校区通学路がある中、6校ですと3分の1ということですね。ほかに現在検討中の学校というのがありますか。

○教育部長(秋元 淳君) スクールゾーン設置の検討についてでございますが、現在、金田小学校において、スクールゾーン設置の要望を検討していると伺っております。

○16番(渡辺厚子さん) 分かりました。

次に、通学路のカラー舗装(グリーンベルト等)についての質問に移ります。

こちらは実施済みの4校のほかにカラー舗装の要望というのはないのか、お聞かせください。

○教育部長(秋元 淳君) 教育委員会、学校、道路管理者等で実施した昨年度の通学路合同点検の結果を受け、富来田小学校通学路において、カラー舗装を検討していると伺っております。

○16番(渡辺厚子さん) 分かりました。

それでは、今後、要望があった場合、カラー舗装実現までの手順についてご説明願います。

○教育部長(秋元 淳君) 学校や関係課及び警察による通学路合同点検において、関係課や道路管理者及び警察と協議し、カラー舗装が必要かを判断いたします。

○16 番(渡辺厚子さん) 必要かを判断するに当たりまして、ただ、これが実際に実施されるまでには当然予算というのが関係してくると思います。なのですが、自治体によっては、安全対策としてのカラー舗装を重点的に、計画的に進めているところもございます。合同点検を踏まえて、協議の上、必要かを判断するというところでございましたが、地域からの要望があった際には、ぜひとも予算確保して迅速に対応していただきますよう、よろしくお願いいたします。

次に、小項目4点目のゾーン 30、ゾーン 30 プラスについてお尋ねいたします。

最初のご答弁で、現在、自治会等よりゾーン 30 設置の要望はないとのご答弁でございました。

このゾーン 30 については、私もそれを知った当初、議会で、最初の質問でも申し上げましたけれども、当初は議会でその推進を提案したんですけれども、なかなか広まっていけないなと感じておりました。ですので、地域から交通安全対策の相談がありますと、このゾーン 30 のチラシを持って役員に説明などをして回った経緯がございます。

現在、地域の役員に就いておられる方々がこのゾーン 30 についてどの程度周知されているのかは分かりませんが、新たにゾーン 30 プラスという制度も加わったということを含めまして、改めて各自治会等への周知を図ってもらいたいと考えます。これから、どのタイミングでお知らせすることはできるでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 各自治会等に対しましては、市政協力員に配付しておりますタブレット端末を活用し、準備が整い次第、ゾーン 30 及びゾーン 30 プラスについて分かりやすい内容で配信し、周知に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○16 番(渡辺厚子さん) 分かりやすい内容での周知、ぜひとも進めていただきたいと思います。

次に、自転車ヘルメットについての質問をさせていただきます。

交通安全教室や出前講座等で周知に努めているというご答弁がございました。これにつきましては、市内の高等学校へ出向くのもよいと思いますが、いかがでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 議員ご指摘のとおり、ヘルメット着用の促進に有効な方策であると考えますことから、木更津警察署及び市内の高等学校と協議を進めてまいります。

以上でございます。

○16 番(渡辺厚子さん) 最初の質問のときに触れましたが、高校生で、ほとんどの高校生が、自転車通学の高校生が、私が見ている限りでは着用していないんですね。ですが、着用している学生さんに見せてもらうと本当にスタイリッシュで、女子学生のヘルメットはとてもかわいいヘルメットなんですけれども、男子学生もすてきなヘルメットをかぶっておられて、ちょっと声かけなんかもするんですが、ぜひとも、自転車通学、毎日かなりな距離で高校生は行く場合がありますので、高校生への普及を進めていただきたいなと思っております。

大人への着用推進として、ちょっとこれは私の素人としての案なんですけど、大人といっても高齢者というか、例えば中学校への自転車登校用に使用していたヘルメット、卒業生から寄附してもら

って、学校や公民館などで、希望する地域の高齢者の方に提供するなどの利活用なんていうのはできないかなと思うんですが、これについてはいかがでしょうか。

○市民部長(石井彰一君) 中学校への登校用に使用していたヘルメットにつきましては、卒業後もヘルメットの着用が必要となる方などの継続的な利用や、また、家族間での利用なども考えられることから、可能な範囲でのご寄附への協力の呼びかけにつきまして、学校や関係団体と協議してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子さん) 何でこんなことを私が申し上げたかといいますと、実は私の娘が小学生のときに、小学生が自転車のときにはヘルメットをかぶらなきゃいけないとなった。そのときに、知人から、お子さんが使わなくなった中学時代の自転車通学用のヘルメットを譲ってもらったんですね。地元は波岡中学校なんですけど、それに好きな色を、カラーを塗り直しまして使ったという経緯がございましたものですから、不要となったヘルメットの利活用というのはどうかなと思って今お話しさせていただいたんです。

そう言いながらも、ちょっとヘルメットについて今回いろいろ調べましたら、ヘルメットも耐用年数問題があるというふうに、いろんな説がございます、物にもよるでしょうし、3年だよとか、5年だ、10年だとかいろんな説がありますので何とも言えないんですが、もし可能であれば、捨ててしまうようなヘルメットを何がしか、わざわざ買おうと思わなくても、地域の方が、もらえるんだったらもらおうかな、つけようかなと思ってくれたらいいかなと思って、そんなお話をいたしました。

最後にまとめとしてお話しさせていただきますが、市では今年度、組織改編によりまして新たに地域共生推進課が誕生いたしました。これまで市民活動支援課が担っておりました防犯や交通安全に関する所掌を含め、市民の安心・安全に直結する課題を担当する部署として一層ご尽力いただきますことを期待いたしまして、本日の全ての質問を終わります。ありがとうございました。